

ニコっと通信

nicotto tsu-sin!



ニコっとちゃん

2003.10.15

第3号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館



秋のこども観劇会

開催期間

10月26日(日)

劇団あとむ公演
「あとむの時間はアンデルセン
～遊びバージョン～」

棒、輪、球を使って、動物などいろいろな物を表現する、とっても不思議なアニメイムの舞台です。どんなアンデルセンのお話はみられるかな。子どもも参加できる遊びのコーナーもあります。

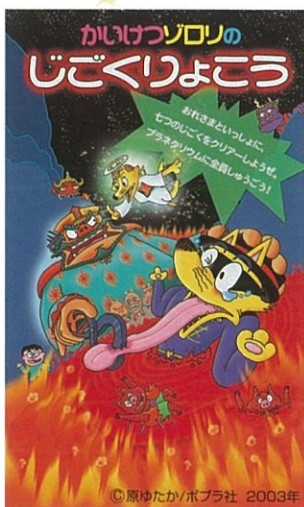
1回目:11:00～12:10

2回目:14:00～15:10

定員:各回292名(先着順)

※各回開演1時間前より整理券配布

× スラネタリウム秋番組



投影期間

9月13日(日)から
大人気上映中!!

平日 15:20～

土日・祝日 13:10～、15:50～

おなじみソロリとイシシ、ノシシがじごくに連れて行かれてしまいます。地上に戻るには7つのじごくをクリアしなくてはなりません。

昨年夏に上映した、大人気のプラネタリウム、ソロリシリーズが再び登場。

ぐんまこどもの夢大賞 第12回
入選作品展

開催期間

11月16日(日)～
30日(日)

ぐんまこどもの夢大賞は、毎年夏休み期間中に作品を募集している事業ですが、今年で12回を迎えることができました。これまで作品をかいてくださったみなさん、ありがとうございます。そして今年もたくさんの夢あふれる作品をご応募いただきました。入選作品展では、その中から、最優秀賞、金賞、銀賞、銅賞、奨励賞に輝いた作品を展示します。子どもたちの自由で夢のある作品を、ご家族でご覧ください。

なお初日(11月16日)は、表彰式を行うため、午後からの開場となります。

休館日

10月… 6(月)・14(火)・20(月)・27(月)・31(金)
11月… 4(火)・10(月)・17(月)・25(火)
12月… 1(月)・8(月)・9(火)・10(水)・15(月)・22(月)
年末年始… 12月27日(土)～平成16年1月3日(土)



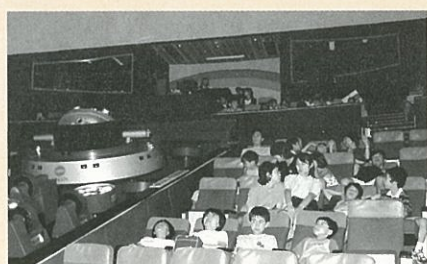
ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059
URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>

2003年最大の天文イベント 火星の大接近を見よう!!

●●ぐんまこどもの国スターフレンド●●

「こどもの国スターフレンド」は、地元の太田宇宙の会
のご協力により、親子を対象にした観望会を行っています。



季節の星や話題の天文現象などをテーマに、プラネタリ
ウムでの生解
説、望遠鏡を使
っての星や星
座、星雲などを
観望していま
す。

8月は、誰も
が1度はテレビ

などで耳にした「火星の大接近」をテーマに行いました。
8月23日(土)、「火星の出」にあわせていつもより遅い
午後7時30分の開始時間となりましたが、たくさんの親
子が集まりました。

参加者は始めにプラネタリウムで、夏の
代表的な星座の見つけ方などの星空散歩
の基礎知識の説明を受けました。次に火星
の様子や火星接近の仕組みについて、分か
りやすく映像を交えての解説が行いました。

続いて屋外へ移動し火星が見えるまで
の間、プラネタリウムで見た星や星座、星
雲等を肉眼や望遠鏡を使い観察しました。

午後9時近くになり所々曇っていた空も
晴れ、火星が児童会館の上にさん然と輝き
ながら現れると、全員の視線が注がれまし
た。講師の話によると望遠鏡では表面の模



様も見えるというこ
とです。

早速熱心に望遠鏡を
のぞく子ども達からは、
「見える!!」と歓声が
上がり、お父さん、お母
さん達は「どれどれ??」
と懸命に目を凝らして
いました。その側で、講
師がそれぞれ質問に応
じていました。

「火星って目玉焼き
みたい!」と興奮気味



に教えてくれた男の子に、おいしそうだね、食べたい?と
聞くと「でも大きいからきつと食べきれな
いよ」との答えが返ってきました。

観望の後、参加者はそれぞれ解散してゆ
きましたが、この日のスターフレンドは大
変盛り上がり、午後10時過ぎまで続きた
した。

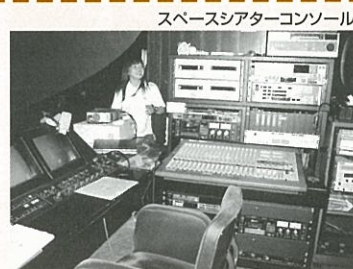
今後の「こどもの国スターフレンド」は、
12月・2月に予定していますので、親子そ
ろってお出かけください。

通常の開始時間は午後6時30分頃ですが、
その時のテーマによって異なることもあ
りますのでご確認ください。

「スペースシアター」へいらっしゃい

ぐんまこどもの国児童会館の2階には、不思議空間があるのです。その名も「ス
ペースシアター」。直径18mのドーム型スクリーンを使い、プラネタリウムや全天周映
画を上映しています。視界いっぱいに広がる降るような星空や、迫力満点の映画は、「見
る」というよりむしろ「体験する」という感じです。ご家族揃ってお楽しみください。

※詳細についてのお問い合わせは、ぐんまこどもの国児童会館まで。



プラネタリウム

★一般投影★

中学生以下無料・大人300円

—ものがたり仕立てで、小さな子どもから楽しめます—

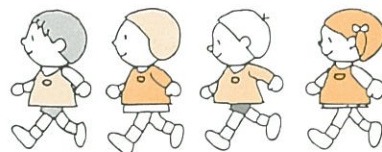
四季の星座紹介をしながら楽しい物語を、年間4作品上映しています。
9月からは秋番組「かいけつゾロリのじごくりょう」を好評上映中です。

★こどもの国スターフレンド★

—夜の眠気も吹き飛ばす、観望会もあります—

時々の話題を盛りこんだ星空観望会を実施してい
ます。望遠鏡で見る宇宙は感動します。(事業内容は上
の記事を参照してください。)

『ジェインのもうふ』



—母子の分離と移行対象—

『ジェインのもうふ』

有名な劇作家アーサー・ミラーが子どものために書いた物語に『ジェインのもうふ』という作品があります。

ジェイン(主人公の女の子)が赤ちゃんの頃から大好きだった“ピンクのあかちゃんもうふ”とのかかわりと思いが描かれている作品です。赤ちゃんだったジェインが大きくなるにつれ、愛用の毛布はすり切れ小さくぼろぼろになっていきます。お母さんにぼろ布として処分されそうになった毛布の切れ端を取り戻して大切にしていたジェインだが、その毛布の切れ端も、小さくなり、その切れ端から糸を抜いて小鳥が巣を作るのに持って行ってしまい、最後に残った一本も持っていかれ、とうとうなくなってしまいます。けれども、毛布の形はなくなっても、それは思い出としてジェインの心の中に残り続けるというストーリーで、子どもにとっての移行対象(安心毛布)の存在の意味と別れが描かれています。

親子分離のプロセス

乳児期(0～1歳未満)の子ども(赤ちゃん)は、「だっこ」(抱く)と「しがみつく」(関係)に象徴されるような接触によって、母子不可分の愛着関係を形成します。

そして、自立歩行が始まる一歳児は、知能や情緒の面でも物事の認識や喜怒哀楽の芽ばえが見られるようになります。こうなると、母親とそれ以外の人をはっきりと識別しますから、「分離不安」を感じて母親の後追いやしがみついても多くなり、母親離れの最も難しい時期です。この時期の母親的存在は「安心基地」の機能を強めます。

この頃から二歳児に向けては、自我が芽ばえ、探索行動と共に自己主張などの意思表示が目立つようになります。子どもにとっては成長期、親にとっては反抗期です。

さらに、三歳を過ぎる頃になると、言葉が発達したり、友だちにも慣れたりして、母親離れが安定してきます。

しかし、母親から離れていたり、ひとりで寝たりするときには、何かもの寂しく、落ち着かない気分になります。それはまだ完全に「分離不安」から抜け出ていないからです。

移行対象の存在の意味

アメリカの人気漫画「スヌーピー」(正式には「ピーナッツ」)の中に出てくるルーシーの弟ライナスも、いつも安心毛布(セキュリティ・ブランケット)を持っています。ある特定時期の幼児が、肌身離さず持っている毛布やタオルケット、ぬいぐるみなどの無生物を「移行対象」といいます。これは、子どもにとっては分かちがたい一部でありながら、最初の“自分ではない所有物”として、内的体験と外的体験との橋渡しをするような対象なのです。そして、母親との依存的な関係から分離した関係(自立)への移行期において仲介的役割を果たします。

「移行対象」が意味を持つのは、母親との分離のときです。母親が留守のとき、不慣れな場所への旅行のとき、就寝のときなどに、その重要性を増します。

分離不安は、一歳から二歳の間が最も強く、三・四歳では少し弱まり、五歳を過ぎると急激に弱まっていきます。

なお、母親分離が集団内で安定するのは三歳三か月、女兒は男児より約二か月早く母子分離ができ、出生順では、長子——ひとりっ子——末っ子の順に母親離れが早いとの調査結果があります。

子どもは成長の過程で、甘えや反抗などのさまざまなサインを出して、親の対応や調整を促します。その信号は、それを受け止める成熟した親の心を子どもが感じることができるときにのみ、適切に表現されます。親はこのサインを受け止めて、親子の距離を調整し、親子の分離がスムーズに行われ、それぞれに望ましい自立を遂げることが期待されます。

参考: 中西由里「母と子の旅立ち～母子分離をめぐる～」

(『教育と医学』2003年4月号所収)

: アーサー・ミラー作、厨川圭子訳『ジェインのもうふ』、偕成社

: 中野由美子「親の子離れのプロセス～乳児期・児童期・思春期・青年期～」(『児童心理』2003年5月号所収)

: シュルツ原作、ツワルスキー著、笹野洋子訳

「いつだって、誰かがいてくれる～スヌーピーたちは無理しないで生きている～」、講談社

■こども相談室 TEL.0276-25-0055

全天周映画

★企画投影★

—子どもも大人も夢中です—

生演奏やCDをバックに星を見る星空コンサートや、最新天文情報を分かりやすく解説するなど、ライブ感覚いっぱいの投影です。年4回実施で、次回、12月はクリスマスコンサートです。どうぞ期待!!

中学生以下無料・大人600円

—星は見られませんが…—

ドームスクリーンに映し出す、迫力満点の映画。現在上映中の「オシャンオアシス～海洋の楽園～」の海中の映像は、まさにいやし系です。



いきいき ボランティア (パソコンルーム)

高田 浩行さん

今回は、パソコンルームやアドベンチャークラブなどで活動されている高田浩行さんにお話を伺いました。

ーボランティア活動をはじめたきっかけは？

高校1年の時、新聞のボランティア募集の記事を見て、小学生の時に1度だけ遊びに来たことを思い出して友達と一緒に始めました。

ー今年で何年になりますか？

今年で10年目になります。大学の4年間はぐんまこどもの国児童会館で、ボランティアと、有償の補助指導員も掛け持ちでやっていました。東京の大学に進んだのですが、どうしてもここでのボランティアを続けたかったです。それで東京と群馬の往復の交通費を捻出するために、補助指導員もやろうと考えて。

当時、週末はほとんど群馬に戻り、活動していました。でもその4年間はあったから、今も続けられているのだと思います。

ー今までに辞めようと思った事はありますか？



入社してすぐ、仕事が忙しかった時に迷ったことはありましたが、子どもたちと触れあいたいという思いがあったので辞めませんでした。

これからもできる限り続けていきたいと思っています。そしてボランティア登録歴最長を目指していきます!!



公園レター

じゃぶじゃぶ池から噴水池、かくれんぼの丘を過ぎて、公園内をどんどん歩く。高い空、アキアカネ、澄んだ空気を感じながら進んでいくと、うっすらと汗ばむあたりで「ふれあい工房」が見えてくる。

こんな自然の中で体験する陶芸教室や木工教室は、大人も子どもも熱中できる。

陶芸、木工どちらも半日体験教室は、初心者から。特別講習会や団体利用のない開館日ならいつでも利用できるので、「ちょっと興味があるけど自分にできるかな…」という人にお勧め。受付はどちらも、午前の部は9時30分から10時30分の間、午後は1時から1時30分の間にお電話か直接工房へ。木工教室には、他にも幼児からできる「ちびっこ木工教室」や、小学生以上を対象にじっくり作る「一日木工教室」もある。

陶芸教室の特別講習会は11月23日(日)に「干支の置物」を作る。来年の干支はなーんだ?…釉薬をかけるだけだから、小学生から楽しめる。さてもうひとつ、大人におすすめは、成人(徳利、ぐい呑み)講習会。2日1コースで、11月27日(木)・12月14日(日)の回と11月30日(日)・12月14日(日)のどちらか。自分だけの器で一献いかが？

木工教室の特別講習会は「クリスマスツリー作り教室」。開催日は11月8日(土)・9日(日)・16日(日)・30日(日)・12月7日(日)の10時から3時。12月13日(土)・14日(日)は「こま作り教室」。どちらも先着順なので必ず電話でご予約を。

●お問い合わせ・お申し込み●

TEL.0276-22-1767 ふれあい工房

紹介します

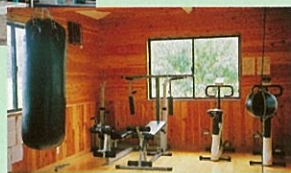
わかば児童館



〒377-0027 渋川市金井字戸神1477-3
TEL.0279-24-5600

〈開館時間〉9:30~18:30

〈休館日〉祝日、年末年始、お盆



このコーナーは、県内の児童館を紹介します。
楽しい行事や特色ある遊具などをお話していきます。

今回は、平成14年4月に開館した渋川市のわかば児童館です。

わかば児童館は、県内でも数少ない民営の児童館のひとつです。渋川市郊外の静かな環境の中にあります。敷地内には畑や果樹園があり、小川が流れ、職員手作りの池ではホタルの鑑賞も出来るそうです。また、児童館には珍しい、サンドバックやサイクルマシーンなどの設備が整った「体力トレーニングルーム」もあります。

その恵まれた環境を生かした催しを行っています。「よもぎ団子作り」や「山菜パーティー」、「川遊び」など四季を肌で感じられる催しを中心です。夏休みには児童館の庭にテントを張り、新しくできたあずま屋で炊事をして「屋外キャンプ」を行いました。

この広い敷地を管理するのも館長さんはじめ、職員の方々。草むしりには、児童館のマスコット、羊の「モコちゃん」が頼りになるそうです。

10月からは新たに「年長児童の赤ちゃんの出会い・ふれあい・交流事業」、「中・高校生居場所作り推進事業」、「親子の食事セミナー事業」の催しも予定しているそうです。

“生活する児童館”がモットーという館長さんの言葉どおり、子供たち一人一人のペースで、のびのびと活動しているという印象を受けました。ぜひ皆さんも、わかば児童館を訪ねてみませんか。



友の会だより



食欲の秋、文化の秋、読書の秋、スポーツの秋といろんな秋がありますが、みなさんどんな秋を過ごしていますか？この秋、児童会館もいろいろ催し物を予定していますので、お好みにあわせて積極的にご利用ください。

友の会では、11月23日(日)にバス旅行を行う予定です。お台場の方面を計画していますので、ぜひご参加ください。

入会やバス旅行に関することなどのお問い合わせ
ぐんまこどもの国児童会館友の会事務局(指導課)
TEL.0276-25-0055



第17回全国健康福祉祭群馬大会
ねんりんピックぐんま
平成16年10月16日(土)~19日(火)

編集後記

今年話題の天体ショー「火星の大接近」を見ましたか？夏の熱い暑い夜でも、火星は赤々と光り輝き存在感がありましたね。さて、これからの季節は空気が澄んで星を見るには最高の時期です。秋の夜長、家族でゆっくりと星を眺めてみてはいかがですか？